

マルチメディアキャンプ開催

事務局 青柳

すっかりこの季節の恒例となった、ACEマルチメディアキャンプ。支部会員の皆さんからの「開催せい！」との強力なブッシュのおかげで、今年も開催の運びとなりました。

7月10日、ところは支笏湖ポロピナイキャンプ場。奇しくも一昨年の同じ7月第二土曜日、同じ場所で行われた、「伝説の100人



丸焼き隊長。久々にみたなあ。

マルチメディアキャンプ」の悪夢、いや思い出がよみがえります。ハイエナのように羊の丸焼きに群がり、ビールを飲み干す大人と子供と日本人と外国人・・・前回の反省から、今年は25人ほどのちょうど楽しくつづげる人数で開催しました。

今回いちばんの新兵器は、吉田編集長の手配による「生ビールサーバー 30リットル」。そう、居酒屋や屋外イベントなどでよく見かける、ビールタンクとガスボンベが別になった、あれです。ところが現地に着いていざ組み立てるとなると、普段はサーバーの扱いに慣れている我々ですが、アナログ・ビールサーバーの構築にてんやわんや(武田先生、らくらくガイド書いてー)。なんとかタンクとボンベとサーバー口の部分を、ツイストペアならぬビニールケーブルで接続し、蛇口をひねると・・・透明な管を伝ってタンクから出てくるビールは、やけに無色に見えるのですが、これがガスと混ざってサーバー口から注ぎ出されると、紛れもなく生ビールの味。うまい！まだ日も高いうちからグビグビ飲んでしまっ、夕方にはすっかりできあがってしまいました。

さて、マルチメディアキャンプには欠かせないイベントの「羊の丸焼き」。おなじみ塩谷丸焼き隊長に、今年は見澤隊員が加わって、じりじりとした炎天下に子羊一頭をじっくりと焼いてくれました。参加の半数を占めた子供たちは、武田・吉村・三河家のだんご3兄弟3家族を含めて12人中11人が男の子だけあって、丸焼きも気持ち悪いより食べたい、という感じで見澤おにいさんの周りに張り付いて、さばいては食べ、を繰り返すうち、あっという間に子羊は骨だけとなりました。

日もとっぷりと暮れ、残りの食材を焼き、水越先生特製のスパゲッティを食べてワインを飲みながら、吉村父子のネタ本朗読大会(詳しくは本人へどうぞ)、花火大会(最近の子供って違う種類の花火を束ねて火を着けるのね)をしているうち、気が付いたら

テントの中で泥のように寝ていたのです。

翌朝目が覚め、焼きそばプレートが火興しのうちわと化して使い物にならなくなり、大量の焼きそばの山が放置されていることに落胆していると、水越奥様がキャンプでは見たことのないような見事な中華鍋と強力なコンロで、ごみになりかかった焼きそばを次々と調理してくださいました。さて出発前の腹ごなしで今回はカヌーを持ち出して、チャブチャブ号の米山キャプテンと武田クルーの指導のもと、入れ替わり立ち替わりカヌーを楽しみました。時々許可水域をはみ出して暴走するジェットスキーの起こす波にもまれながら、親子で漕いだり調子に乗って丸駒温泉の露天風呂を覗いてみたり(取材ではないよ)楽しい水遊びのひとつでした。

そんなこんなで1999マルチメディアキャンプは終了しましたが、ちょっとばかり買すぎたビールは5リットルほど余してしまい、編集長が帰ってから洗面器で飲んだとか(うそよ)。来年また新しい趣向をこらしてやりましょう。

-Workforce of the Future への参加-

道都大学短期大学部 野口光孝

nogu@netfarm.ne.jp

7月8日～14日の日程で由水先生とアメリカヒューストンに行ってきました。帰国後2週間経つのに所用でばたばたしてまだ整理する段階に入っていません。とほほ。とりえず簡単ですが報告します。今回の訪米の目的は今年度から本学で実施しているシスコネットワークングアカデミーの担当教師世界会議出席のためです。



NASAスペースセンターにおいてあるサターン5型

ヒューストンはみなさんご存じNASAのスペースセンターがある土地です。アメリカの南部に位置しますので気温が高く、今回の会議中も35度を越える毎日でした。ただ、会議は宿泊したホテルの会場を使って行われていましたので、冷房の利きすぎる状態に風邪気味になってしまいました(実際帰国時は風邪をひいてしまいましたけど)。さて、会議は世界から500名を越えるメ

ンバーが集まって行われました。主催者はCisco社とCIS (Communities In Schools, Inc)等5団体です。ネットワーキングアカデミーが中心ということではなく、広い意味で将来の子供たちの



会場のホテルに設置されたコンピュータールーム

学習環境を考えていこうというもので、期間中60ほどのワークショップと6つのセッションが行われました。

主催者の一つであるCIS(<http://www.cisnet.org/>)は非営利の市民団体であり、学校以外の場で子供の教育や成長のために必要なことを実践していこうとする団体です。ネットワークに関わりの深い団体が数多く参加した会議ということもありNetday(<http://www.netday.org/>)の発案者、MICHAEL KAUFMAN氏のプレゼンテーションもありました。これはNetdayの一つのプロジェクトとして、アメリカ全土から90校を選び学校のネットワーク化、設備、教員へのサポートなども含めて数年に渡り実施していこうとするものです。群馬サミットも近いしPC-Rのメンバーにはタイムリーな話でしたね。

それからとってもうれしかったことがあります。宿泊したホテルで昨年11月に訪問したサンフランシスコのセコイア高校の先生に再会したのです。500人からの人の中で会えるなんて言うのは感激でした。今回はこの先生との写真を含め、以下のURLに



6カ国の教員とシスコの教育部門担当者のディスカッション

報告をあげてあります。ご覧下さい。

<http://www.netfarm.ne.jp/nogu/Houston/index.html>

<http://kiyota.ncf.or.jp/report/cisco/index.html>

ネットワークフォーラム開催

社会教育総合センター 学習情報課 桜庭 望

7月15～16日、「かでる2・7」8階研修室において「情報ネットワークの中で何をどう守るか」をテーマに北海道学習情報提供機関・団体ネットワークフォーラムが開催されました。全道各地から60余名が参加し、リアルビデオによるフォーラムの中継も行われました。初日はサイバートラブル110番でおなじみの元小樽商大、現在は亜細亜大学法学部・町村泰貴助教授が「サイバートラブルと教育機関」と題して講演を行い、教育現場において起きるトラブルやそれに伴う法的な問題、最近の犯罪事例などに触れられました。

2日目は「インターネット情報をどう安全に活用するか」をテーマとし、NTTの高橋さんが「セキュリティの必要性」と題してまとめ、インフォスノーの高本さんに「セキュリティを考えたシステム構築」というテーマで技術的な問題をわかりやすく説明していただきました。最後に発寒中学校の荒島先生により「学校の情報発信を巡る状況」と題し、札幌市内の教育現場で起こっている事例を具体的な事例で紹介いただきました。午後からのシンポジウムは、IJの田中さんによる絶妙な司会進行のもと、高本さん、高橋さんに加えビー・ユー・ジューの田崎さん、オープンループの磯さんの5人により、「セキュリティについて考える」～ネットワーク運用の留意点～と題して、様々な事例やセキュリティに関する技術が紹介されました。田崎さんは暗号化技術を具体的な数値を例にわかりやすく解説し、磯さんにはセキュリティに関する自社の取り組みを紹介いただきました。IJの田中さんとインフォスノーの高本さんからは、プロバイダー側からの対策や啓蒙という観点で参考になる意見が数多くでました。

参加者の皆さんからの声として、「サーバー利用者の違法行為に対して、学校側の責任を問われる可能性について認識を新たにしたい」「運用面での職員の倫理観を高める必要性を感じた事例研究だった」「現場の方々の話が面白く、ためになった。教育現場からの声は充実した内容だった」などがあげられ、今後一層こうした内容の研修の必要性が強くなってくるものと思われます。クラッキング事例等はなかなか実例があげにくいものですが、それなりに具体的な話しも出て意義のあるものとなりました。

情報化推進コーディネータ養成研修

情報化推進コーディネータ養成研修の募集締切りが今月末と迫っています。20名の定員に対して、25日の段階で17名。企業系からの応募が少ないそうです。今がチャンス!

JAPETからの案内は次のようになっています。

各位

社団法人 日本教育工学振興会 (JAPET)
会 長 宮 島 龍 興
情報化推進コーディネータ養成研修開発部会
主 査 永 野 和 男

情報化推進コーディネータ養成研修受講者募集について

日頃は日本教育工学振興会(JAPET)の活動に理解、ご支援をいただきありがとうございます。

さて、2002年度から開始される始まる新しい学習指導要領でも明らかのように、学校教育の情報化は一段と進められようとしています。小中高等学校での情報教育は、各教科でのコンピュータをは

はじめとした情報機器の利活用だけでなく、校務の情報化など、学校教育全体でさまざまな推進が必要とされています。しかし、これらの情報化を円滑にしかも迅速に進めるためには、学校の実態や教育の内容、さらには情報機器の有効な活用などを理解した人材が必要です。これに対応して、文部省の協力者会議において「情報化推進コーディネータ」の必要性が提案され、その人材育成や制度の確立が急務となってきました。情報化推進コーディネータは、小中高等学校の情報教育の推進や学校の情報化を支援する重要な役目を担い、コンピュータやネットワークに関する技術的な能力だけでなく、学校教育全般に関する広い知識と理解が必要となってきます。

そこで、本会では文部省、通商産業省との連携により、別添実施要領の内容で「情報化推進コーディネータ養成研修」を企画し試験的に実施することになりました。なお、今回の養成研修は、通商産業省の特別認可法人・情報処理振興事業協会（IPA）の情報学習サポート事業の一環として実施される研修です。

参考:文部省協力者会議でのイメージ図のURL

<http://www.monbu.go.jp/singi/chosa/00000301/image2.html>

実施要領

当養成研修は、IPA 事業の実証実験として実施するため、コース期間中に各種アンケート等の記入をお願いすることとなります。

1. 研修期間:

1回目:1999年8月26日(木)～29日(日)<4日間>

2回目:1999年9月25日(土)～26日(日)<2日間>

3回目:1999年11月12日(金)～14日(日)<3日間>

注:受講者は上記9日間の研修に欠かさず参加し、この間にだされる演習課題を提出します。

2. 研修概要(今後変わることもあり得ます)

【第1回】

第1日(午前)オリエンテーション 情報化推進コーディネータの役割

(午後)持参PCのネットワークへの接続

第2日(午前)校務の情報化(午後)新しい学習カリキュラム

第3日(午前)ネットワーク技術(午後)校務の情報化演習

学習環境デザイン(1)

第4日(午前)学習環境デザイン(2)(午後)コミュニケーション環境の設計

自己学習・遠隔共同学習期間

次回コースまでに課題1を準備

【第2回】

第1日(午前)課題1の発表(プレゼンテーション)

(午後)プレゼンテーション技術

第2日(午前)情報システムの導入と設計と課題説明

(午後)情報システムの導入と設計と課題説明

自己学習・遠隔共同学習期間

次回コースまでに課題2を準備

【第3回】

第1日(午前)課題をグループでプレゼンテーション

(午後)ディスカッション

第2日(午前)確認テスト(午後)最終課題演習

第3日(午前)最終課題演習(午後)最終課題発表

予定講師:

永野和男(静岡大学)山西潤一(富山大学)美馬のゆり(埼玉大学)大島純(静岡大学)原克彦(園田学園女子大学)堀田龍也(富山大学)井上志朗(岐阜大学教育学部附属中学校)渡部昌邦(福島県教育庁)石原一彦(大津市立瀬田小学校)折田一人(前橋市教育研究所)高橋邦夫(東金女子高等学校)緒方秀俊(マイクロ

ソフト)鈴木二正(慶応義塾幼稚舎)

2. 研修会場:<上記3回の研修>

学校法人 岩崎学園 8階 「かながわマルチメディアサロン」
TEL045-311-5562 FAX045-311-8109

横浜市神奈川区鶴屋町2-17 相鉄岩崎学園ビル(郵便番号221-0835)

3. 応募資格:

将来のため情報化推進コーディネータとしての能力取得を意欲的に目指す方

1)小中高等学校及び特殊教育諸学校で、情報教育の経験年数が2年以上ある教育関係者、または前述の学校を対象にしたサポート等の実務経験が3年以上ある企業関係者。

2)上記9日の研修にすべて参加できること。

なお、本研修では、討論やレポートの作成、プレゼンの準備などをパソコンなどを活用して研修会中のあるいは、現場へもどっての課題演習中に行ってもらうことになっています。したがって、その利用環境(個人的に自由に利用できるパソコンや電子メールアドレスを有すること)、および、基本的なツールの活用や応用ソフトのインストールなどが自分でできる方を前提としています。

4. 受講料:無料(会場までの交通費及び宿泊費は自己負担となります。)

5. 募集人員:約20名

(応募者多数の場合は、選考の上決定させていただきます。)

6. 申込期限:7月30日(金)

7. 受講確定:8月10日(火)

(確定後結果をE-MAILで通知)

----- 応募申込み -----

下記にご記入の上、

mitani@japet.or.jp まで、E-MAILでお申し込み下さい。

氏名:

年令:

勤務先:

所属組織:

役職:

勤務先住所:

TEL:

FAX:

E-MAIL アドレス:

情報処理技術者等委嘱事業による派遣経験の有無(企業SEの方のみ回答)

現在のお仕事の内容:

----- 小論文 -----

情報化推進コーディネータに求められるスキルに関する経験や今後の抱負について1200文字以内で記述して下さい。

(例:初等教育での情報教育等の経験、教室にLANを導入した経験、学校情報化のための企画立案、ネットワーク技術、今回の研修に参加して、身につけたいこと等)

<応募先・問い合わせ先>

(社)日本教育工学振興会(JAPET) 教育部長 三谷新太郎

E-Mail:mitani@japet.or.jp

URL:http://www.japet.or.jp

TEL:03-5251-0751

FAX:03-5251-0752

東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル(郵便番号105-0001)

メディアハンティング`99

エントリー受付中！

事務局 吉田

メディアハンティング`99事務局次長の吉田です。(もういくつ事務局やれば気が済むんだ)

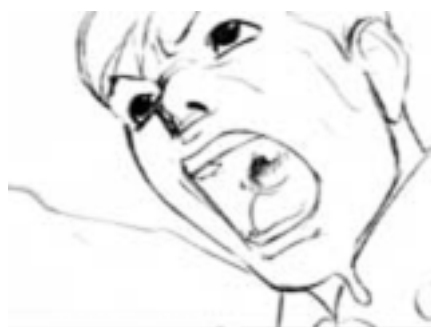
さて、優れたデジタルコンテンツが競い合い、若きクリエイターの登竜門である「メディアハンティング」が今年も作品を受け付け中です。

Media Hunting '99 in Hokkaido は、今ますます普及しつつあるマルチメディアとそのコンテンツクリエイターの発展、育成、技術向上を目的として開催します。本コンテストは企業、団体、個人を問わず広く一般から部門別にあらゆるコンテンツ、ソフトウェアなどを公募し、表彰しようとするものです。作品製作にあたっての機器の貸し出し等クリエイターへの支援活動も同時に行います。応募ジャンルは自由(既存のジャンルにはこだわりません。自分でこれと思うジャンル名を記入してください。もちろん新ジャンル歓迎。)。但し、審査は大まかなジャンルごとに行い、優秀作品を決定します。(グラフィック・静止画系、ムービー・アニメーション映像系、サウンド・ミュージック系、ゲーム・インタラクティブ系、インターネット系)、その中で特に新ジャンル(独自のジャンル・企画・コンセプト)としての可能性の感じられるもの1作品にメディアハンターの称号(最優秀賞)が与えられます。

作品のレジュメ等を記入し、エントリーをするのが8月末まで、9月の一カ月間が作品送付期間となっております。ジャンルは全く問わないという状況の中で、ピーター・モリニュー(ゲームデザイナー)マイケル・アリアス(CGアーティスト)立花ハジメ(アーティスト)末松亜斗夢(グラフィックデザイナー)塚本晋也(映画監督)伊波正文(作家/写真家)飯野賢治(ゲームクリエイター)山本 強(工学博士)といったそうそうたる面々の審査を経て、優秀作品が選定されます。

昨年の傾向としては、静止画もしくは動画のCGが応募の大多数を占めていたのですが、なかにはJAVAのゲームやインタラクティブな絵本など、趣向を凝らした作品も多くありました。

最優秀賞は賞金50万円プラス山本強先生と一緒にSiggraph視察



昨年の受賞作「都市生活者」の1シーン

旅行、というすてきな特典がありまして、昨年の受賞者の二人もこの8月にサンフランシスコに行く予定です。山本先生と一緒に、といってもヨットで行くわけではありませんよ。

11月の末には優秀作品の作者らを集めた

表彰イベント「ファイナル・ステージ」を開催する予定です。これには、審査に携わった方々をはじめ、応募したクリエイターやそれを支援したい企業の面々が集まり、様々なセッションを繰り広げる予定です。これはこれで独立した結構おもしろいイベントになってます。

Media Hunting '99 in Hokkaidoに関する詳しい情報は下記のURLからどうぞ。

<http://www.aurora-net.or.jp/event/hunt/>

編集後記

本当に欲しいものがなくても物欲は満たせる、ということが分かりました。最近のリンゴマークは光る、ということも分かりました。ホントはDVD要らなかったんだけどなあ。(吉田)

先週、玉川の清水先生がお忍びで札幌と釧路へいらっしゃり、心ゆくまで吞ませていただきました。今年に入って3度目の来道。もう北海道に移住してしまいませんか？それにしても支部はそういうメンバーが多いねえ。嬉しい限りです。(青柳)

最近近くの字がぼやけてきて見えなくなってきました。くっやしいなあ。で、とうとうめがねかけちゃいました。変です。(野口)

この暑い中、道都大学で研修会でした。久しぶりのネットワークケーブルの作成に悪戦苦闘。この手の工作は生徒まかせだったことを後悔しています。明日も頑張ります！さて、校舎に光ファイバーを通す工事が完了しました。来月早々にこんどはルータを置くラックの工事にくるのだそうです。さてさてこの先どうなることやら...。POEMも間もなく開催です。全国の仲間との再会を楽しみにしています。(荒島)

清水先生現わる。友達方より来る。嬉しいことだ。一週間という短い間だったが、いろいろと夢を語り合ったものだ。これいいのかと不安になることが多いけど、とても勇気の出る語り合いであった。「夢」あればこそやってこられたし、これからも駆け足でいこうと思う。「夢」は夜ひらく～夏の入り口から予定はすっかり崩れてしまったが、きっと今年も、このもつれた状態のまま、秋を迎えることだろう。(武田)



やっぱりキャンプ来てもパソコン出しちゃうのね～。

教育とコンピュータ利用研究会 北海道支部

1999年7月28日発行

事務局：〒060-8711 北海道札幌市中央区大通西3-6

北海道新聞社 情報開発本部内(担当：青柳・吉田)

TEL 011-210-5801 FAX011-210-5532